

# 業 績

## 令和元年度の業績

令和元年度の我が国経済は、年度当初においては、米国、欧州等の海外経済の成長を背景に、企業活動・個人消費が緩やかな回復基調で推移しましたが、年度末にかけて発生した新型コロナウイルス関連肺炎の世界的な感染拡大により、海外経済の減速とともに、国内の経済活動の停滞や景気下振れリスクが急速に進み、先行き不透明な経済環境となりました。

こうした情勢下におきましては、当会では、取引

メイン化の徹底や調達コストの適正化等を踏まえた県下JAからの受入れに取り組みました。また、貸出金については、リスクとリターンのバランスを重視した取組みに努め、また、余裕金につきましては、市場動向を踏まえた余裕金の効率的かつ安定的な運用に取り組みました。このような取組みとともに経費等の抑制に徹底して取り組んだ結果、当期剰余金は92億55百万円となりました。

### 貯 金

県下JAをはじめとする会員を中心に期中1,505億円増加し、期末残高は7兆9,652億円となりました。

### 内国為替

送金、振込および代金取立は、仕向の取扱件数が332,462件、取扱金額が1兆970億円、被仕向の取扱件数が101,947件、取扱金額が8,718億円となりました。

### 損 益

経済・金融情勢の変化に合わせて資金を効率的に運用したことに加え、諸経費の節減・合理化にも努めた結果、当期剰余金として92億円を計上することができました。

### 融 資

会員以外への貸出を中心に期中65億円減少し、期末残高は5,382億円となりました。

また、受託貸付金については、日本政策金融公庫等の取扱いが減少したこと等により、期中134億円減少し、期末残高は366億円となりました。

### 余裕金運用

預け金は期中1,398億円増加し、期末残高は4兆4,953億円となりました。

また、有価証券は国債および社債が減少したことに伴い、期中395億円減少し、期末残高は3兆1,393億円となりました。

## 主要な経営指標の推移

(単位：百万円、口、%)

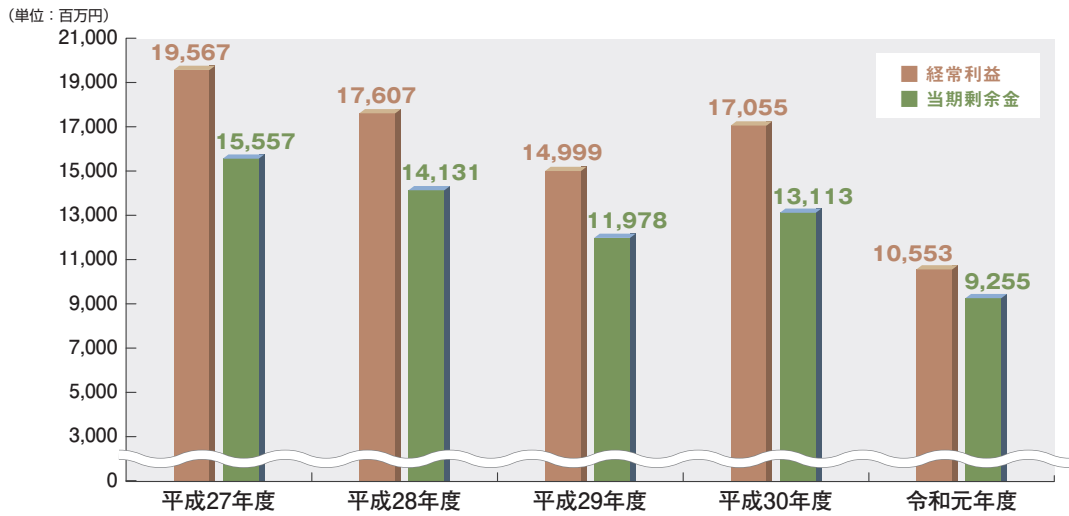
項 目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
経 常 収 益	75,513	76,371	75,352	79,304	72,814
経 常 利 益	19,567	17,607	14,999	17,055	10,553
当 期 剰 余 金	15,557	14,131	11,978	13,113	9,255
出 資 金 (出資口数)	176,402 (17,640,249)	187,402 (18,740,240)	198,402 (19,840,240)	209,402 (20,940,238)	220,402 (22,040,238)
純 資 産 残 高	443,068	436,129	453,524	486,186	471,962
総 資 産 残 高	7,331,979	7,793,363	8,221,765	8,601,528	8,717,452
貯 金 残 高	6,670,011	7,115,279	7,484,501	7,814,638	7,965,214
貸 出 金 残 高	567,068	576,838	592,752	544,777	538,223
預 け 金 残 高	3,583,587	4,027,608	4,132,950	4,355,498	4,495,391
有 価 証 券 残 高	2,813,345	2,849,345	3,137,680	3,178,826	3,139,312
剰余金配当金額 ・出資配当の額 ・事業分量配当の額	8,096 3,018 5,077	7,638 3,128 4,509	6,899 3,238 3,660	6,661 3,348 3,313	6,306 3,458 2,847
自 己 資 本 比 率	22.19	19.90	19.84	17.78	17.44

注1 貯金残高には、譲渡性貯金を含んでいます。

注2 自己資本比率は、農協法第11条の2第1項第1号の規定に基づく組合の経営の健全性を判断するための基準に係る算式に基づき算出しております。

注3 出資金には、後配出資金を含んでいます。

## 利益の推移



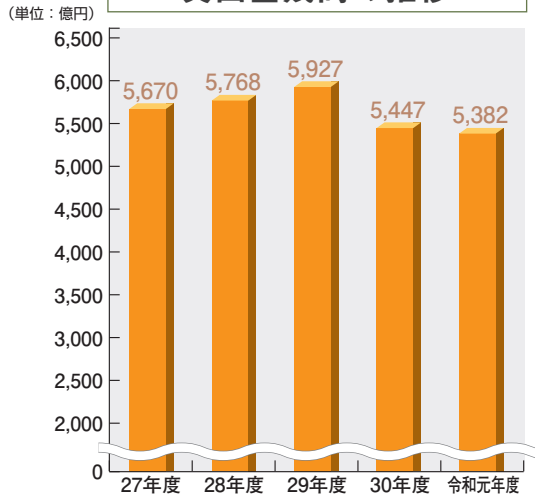
## 自己資本・自己資本比率の推移



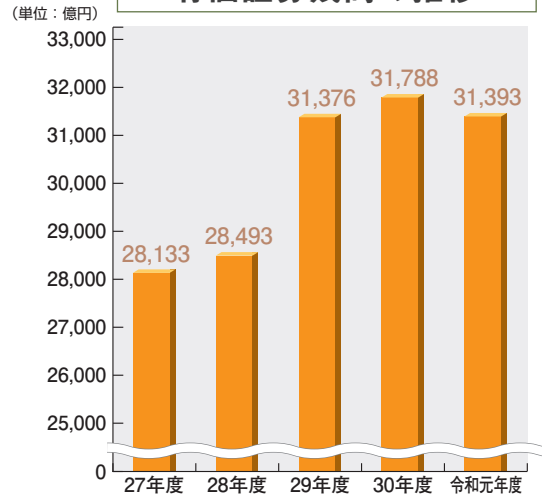
## 貯金残高の推移



## 貸出金残高の推移



## 有価証券残高の推移



# トピックス

## 「JAバンクあいちドームドッジ 2019 in ナゴヤ」への特別協賛

令和元年11月24日（日）、スポーツを通じて未来を担う子供たちを応援することを目的に、「JAバンクあいちドームドッジ2019 in ナゴヤ」に特別協賛しました。

本大会は、ナゴヤドームで開催される全国最大級のドッジボール大会であり、当日は約9,600人が来場されました。幼児の部から一般の部まで、全国363チームが出場し、白熱した試合に会場は大いに盛り上がりました。地域の方々とのふれあいを図るため、愛知県下JAと信連からも15チームが参加しました。

入賞チームには、「JAバンクあいち賞」として、愛知県産の農産物（新米「あいちのかおり」、いちご、みかん）を進呈したほか、会場内に併設した「無料スポーツ体験コーナー」のアトラクション参加者、よりぞう・ちょリスとの記念撮影コーナーの参加者には、JAバンクオリジナルグッズを進呈しました。

また、地域農業のPRに向け、会場内の大型ビジョンでは、美しいあいちの農業風景や、農業に真摯に向き合う農業者の姿を描いた動画を放映しました。



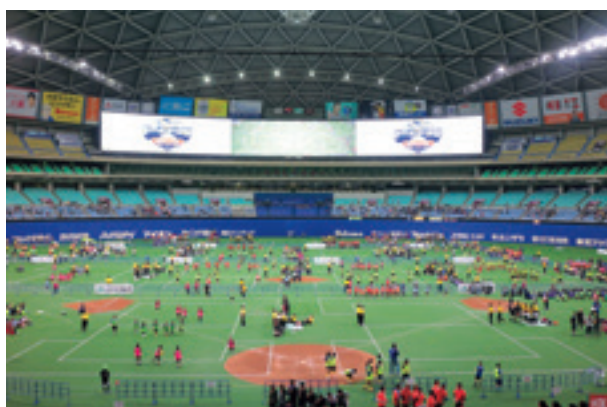
白熱した試合の様子



賞品贈呈



記念撮影



会場の様子

## 「JAバンク新規ご利用特典」の実施

JAバンクでは、令和2年4月から令和3年3月の期間を対象に「JAバンク新規ご利用特典」を実施しています。

このキャンペーンは、初めてJAで口座を開き、口座開設月から一定期間内にJAカードおよびJAネットバンクをご契約いただいたお客様を対象に、JAカードポイント125ポイント(500円相当)を進呈します。



「JAバンク新規ご利用特典」ポスター

## 「JAバンクアプリ」のリリース

JAバンクでは、公式アプリとして「JAバンクアプリ」を令和元年12月19日(木)にリリースしました。

JAバンクアプリは、キャッシュカードを保有する個人のお客様が、スマートフォンにアプリをダウンロードすることにより、口座残高や取引明細を照会することができます。取扱いサービスは、今後、順次拡大する予定のため、ますます便利にご利用いただくことができます。



「JAバンクアプリ」ポスター



## 愛知県下 J A 信用事業 トップセミナーを開催

令和2年2月7日(金)、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて「愛知県下 J A 信用事業 トップセミナー」を開催しました。

このセミナーは、J A 信用事業を取り巻く厳しい情勢の中、J A の事業運営の一助となり、J A 信用事業の強化に資することを目的に開催しているものです。

当日は、県下 J A の組合長をはじめ50名が参加し、当会の中期計画（令和2年度～令和4年度）の概要および令和2年度事業計画の概要の説明、青山学院大学 地球社会共生学部教授 陸上競技部 長距離ブロック監督 原晋氏による講演会（テーマ：より良い組織作りがより良い人材を育てる～青山学院大学 箱根駅伝15年間の軌跡～）を行いました。



石川前経営管理委員会会長によるあいさつ



原晋氏による講演

## 愛知県下 J A 信用事業 渉外担当者研修会を開催

令和2年2月13日(木)、熱田神宮会館において、「愛知県下 J A 信用事業 渉外担当者研修会」を開催しました。

この研修会は、県下 J A の信用事業 渉外担当者の渉外活動に対する意識・意欲を高めることを目的に開催しているもので、県下 J A の優績 渉外担当者 66名、新任 渉外担当者 67名（計133名）の 渉外担当

者が参加しました。

研修会では、参加者の代表による2人の体験発表に加え、ライフアセットコンサルティング(株) 代表取締役 菱田雅生氏による講演会（テーマ：提案スキル向上のための脳の使い方）およびグループディスカッションを行いました。



菱田雅生氏による講演



グループディスカッションの様子